令和４年度

学校自己評価報告書

新潟こども保育カレッジ

令和５年４月２８日

１．教育理念・目標・人材育成像等

（１）自己評価結果

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の理念・目的のもと、特色ある職業教育が行われているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・教育理念、目標、人材育成について、現場に応じた設定がなされている。

・「学生の手引き」を作成し、生徒、保護者に配付し、周知している。

（３）今後の課題等

・提携する短大が変更となるので、それに向けて全般的な準備をスムーズに行う。

２．学校運営

（１）自己評価結果

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・運営方針、事業計画は教育目標に沿って作成・運営されている。
・人事、給与は法人の定める就業規則、その他諸規定によって定められている。
・学校のホームページにおいて、情報公開を行っている。
・人員も増加し、より適切な学校運営がなされている。

（３）今後の課題等

・情報システムの利用により、更なる業務の効率化、ペーパーレス化に向けて取り組む。
・令和５年度から、新型コロナへの対応に変更があるので、その対応を進めていく。

３．教育活動

（１）自己評価結果

評価項目	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ・実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・現代社会において多様な子ども・保護者に対応できる保育者の専門性と資質を習得できるカリキュラムを編成が行われている。
・学生が主体的かつ能動的に学習をし、専門的な知識及び技術を学ぶことができる授業内容を工夫している。
・学生が主体的、能動的に学ぶ環境とし、アクティブラーニング授業を実践している。
・感染症予防対策を図りつつ、保育実習・インターンシップなどの学外で保育実践について学ぶ機会を持っている。
・自校教員からの保育専門分野・心理学分野についての指導他、他分野においても、系列校教員や非常勤教員より、専門性の高い学びを得ている。
・認定こども園増加に伴う社会ニーズに適応すべく、保育士資格と共に幼稚園教諭免許取得を推進すべく、短大との教育連携を行っている
・教員個々での研修参加は行い、専門性の向上を図っている。。

・保育所、施設等、市役所こども未来部保育科、幼稚園・認定こども園協会等との情報共有を行い、教育に反映させるよう努めている。

（３）今後の課題等

・多様化した学生の現状があり、専門性に加えて、分かりやすい授業を展開できる資質を教員が習得することが望ましい。

・保育実習は、いわゆる職業研修の場である。実習担当教員と就職担当教員で実習の情報を共有するなどし、関連業界との連携に努めるとよい。

・教員間の授業見学など、学内の教員研修の位置づけを明確にし、具体的かつ実効のある取り組みを検討すべきである。また、授業の質を向上に向けた具体的な学内外研修を継続的に実施することも策である。

・学生指導について、教職員間での情報の共有や協力体制の構築を図る方策を検討することが望ましい。

４．学修成果

（１）自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・就職実務担当者と担任の他、教職員全体での就職相談や意向の把握、情報提供等の万全なサポート体制が取られている。

・就職活動に関わる学生各々の記録・報告を規定様式に記載し提出するシステムが定着教職員間で情報共有されていることで、学校全体としての管理・フォロー体制が可能となっている。

・学生の保育実習実績が、就職求人へとつながるケースが増加している。

・就職先としての、実績ができた園（施設）他、継続・新規での求人を多数頂いている。

・退学、休学を検討する学生や登校がままならなくなった学生に対しては、教員間の連携のもと面談を実施。保護者とも連携し、資格取得と卒業への目標を再度確認し、実現に向けての対策・計画を立て、学修継続へ導いている。

（３）今後の課題等

・保育士職へのニーズは高い。このニーズを深く理解し、学生の職業意識の向上と共に主体的な取り組みの向上を図るプログラムを検討するとよい。

・中途退学の要因は個々の学生で異なるが、退学の兆候やサインを見逃さぬよう、個別面談の充実など防止策を継続してほしい。必要に応じては、出身高校等からの情報集収なども行えるとよい。学生・担任・心理分野担当教員（臨床心理士）との連携もシステム化することは有効的だ。

５．学生支援

（１）自己評価結果

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・感染症対策を継続しつつ、保育・福祉に関わる施設でのボランティア経験をサポートするなど、就職につながる活動が提供できる体制・環境を整えている。

・奨学金制度を学生に伝達し、希望者には手続き完了まで、丁寧な指導を行い、学生が学ぶ環境を整える支援を積極的に実践している。

・クラス担任制を導入しており、学生への個別の配慮には留意しており、心身の健康状態を常時把握し、各々に寄り添った対応に努めている。

・学習を継続するにあたり、支援が必要な学生については、保護者との継続的な連絡連携が可能な関係を構築している。

・４月の健康診断結果の他、必要な注射の摂取や受診などを働きかけ、健康観察を随時行っている。日々の健康チェック、検温値把握を継続的に行ってきた。

（３）今後の課題等

・一人暮らしの学生へのリスク管理等にも配慮した指導が、県外出身者が増加する中で必要である。対策を構築するとよい。

・学生と家庭の状況を把握するためにも、保護者との連携体制構築に今後も努める必要がある。

・卒業生の就職後の状況や就職先の状況などの情報収集を工夫することで、就職先としての選択時に有効的な情報も得られ、卒業生・在校生への就職支援体制を強化できるのではないか。

・高校・中学校の職業体験授業に依頼に応え、積極的に受け入れを行っていく。
教職員・学生から、保育士の職業の魅力を伝えることができる機会としたい。

・卒業後の学生の保育に関わる相談等にも応え、保育現場で活躍できる人材輩出のための支援体制を継続的に実践していく。

６．教育環境

（１）自己評価結果

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・学生、教職員共に、インターネットでの学習支援システムでつながり、レポートや授業資料他、学生に有益な情報提供に努めている。

・感染症予防対策を図りつつ、保育の実践力を育むべく、同法人の認定こども園との連携を行い、子どもと直接かかわり学ぶ機会を保障している。

・保育実習及びインターンシップの活動先は、保育園・幼稚園・認定こども園・社会福祉施設を拡充している。

・避難訓練（火災・地震）の計画と実施や防災計画・避難誘導順路、図他の整備は定期的に行っている。保育者として、災害に直面した場合を想定できるような指導を行っている。

（３）今後の課題等

・いかなる時も、学ぶ学生に不利益が発生しないよう、授業に関わる環境整備や視聴覚機器の点検整備を継続的に行っていってほしい。

・「健康・安全計画対策マニュアル」・「事故対応マニュアル」の作成や定期的な「防災マニュアル」の評価や改善等、学校としての安全管理体制を整備することで学生が安心、安全に過ごせる環境整備をすすめたい。

・輩出した卒業生から、新任保育者としての課題や、保育者のやりがいの他、在学中に習得すべきことなどのアドバイスを聞くことができる機会を設けることで、キャリア教育の内容の域を広げていきたい。

７．学生の受け入れ・募集

（１）自己評価結果

評価項目	評価
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

学生募集活動として、パンフレット、

・各種教育成果や進路状況などの実績はパンフレットやWeb サイト を通して公開している。また、県内外の高校等訪問により高校教員に対しても理解を深めてもらっている。

・オープンキャンパスなど各種説明会で本校の特色や実績等を適切に伝え、理解を深めてもらっている。

・学納金は物価の変動や収支計画等を勘案し、理事会で決定している。

（３）今後の課題等

・特になし。

８．財務

（１）自己評価結果

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適切に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・安定的な財務基盤となるよう中長期の収支計画を立てており、適切に執行されている。

・年間を通して公認会計士による会計監査が行われている。

（３）今後の課題

・特になし。

９．法令等の遵守

（１）自己評価結果

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとれているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・ホームページ上に自己評価を公開している。

・国・県・市への報告を滞りなく適切に行っている。

（３）今後の課題等

・自己評価を活用し、本校が抱える課題の解決へ向けてスムーズにつながるようにする。

１０．社会貢献・地域貢献

（１）自己評価結果

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

（２）現状

・同法人の系列である認定こども園にて、放課後のインターンシップ活動を継続的に行っている。

・近隣にある公立小学校にて、絵本読み聞かせボランティア活動を毎週１回、継続的に行っている。

・学生が授業で創作した音楽劇ほか演舞の発表を配信で行い、病院の小児病棟のこども達へと発信した。

・発達支援施設へのボランティア活動への参加実績あり。就職へとつながった。

・県内の公立中学校からの、当校への上級学校訪問希望については、積極的に受け入れ保育士職の魅力や保育士が求められている社会の現状を伝えるなどの学びの場を提供している。

（３）今後の課題等

・本校の教育や人材養成の理念や特色を社会貢献や地域貢献に繋げる取り組みにが充実できるよう検討し、一層、貢献に努めていけるとよい。

・「開かれた学校」として、社会や地域の信頼を得るために、学生の活動を見てもらえるような、イベント・行事等の機会等、目に見える活動を検討してもよいのではないか。

・児童発達支援施設等、保育施設以外からも、ボランティアの依頼等がある。保育士資就職の選択肢にもなり得ることを理解し、学生に情報共有や施設との連携関係を構築していく。